

ごあいさつ

滋賀県芸術文化祭会長

滋賀県知事 三日月 大造



滋賀県芸術文化祭の主催事業の中で最も歴史の長い滋賀県美術展覧会(県展)は、今年で75回目の開催を数えます。この間、美術を愛する多くの方々の創作活動の発表の場として、また、優れた作品に触れていただく機会として県民の皆様とともに歩んでまいりました。

振り返りますと、昨年は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、

これまでの取組を感染拡大防止の観点から、すべてにおいて見直さざるを得ない1年でありました。様々な工夫を凝らして実施した「公開審査」や「講評会」は、県内はもとより他府県の美術関係者からも注目され、本県の試みがコロナ禍における公募展開催の一つの事例となれたことを嬉しく思います。これもひとえに本県美術関係者の皆様の多大なる御尽力のおかげと深く感謝を申し上げます。

また、人と会うことが制限され、多くの方が生活に不安を感じ、閉塞感に覆われる中、改めて人々に心の安らぎや感動をもたらす文化芸術の力を感じた一年でもありました。

さて、本年は、リニューアルオープンした県立美術館での5年ぶりの開催となります。入賞を重ねる出品者を顕彰する目的で、第70回展に創設した「アートマスター制」においては、昨年、3名の方が初めてアートマスターとして認定され、今年から5年間の委嘱発表をしていただくこととなります。

新型コロナウイルス感染症の先行きは未だ不透明ではありますが、芸術作品を通して様々な人がつながり、かかわりあえるような場となりますことを御期待申し上げます。皆様からの滋賀県美術展覧会への多数の御出品をよろしくお願い申し上げます。

思いも新たに！

第51回滋賀県芸術文化祭実行委員会

美術部門委員会 委員長 神田 浩



昨年は、新型コロナウイルスの感染拡大で極めて厳しい状況の中、見事に「第74回滋賀県美術展覧会」を開催することができました。開催にご尽力頂いた関係の皆様、力作をご出品頂きました作家の皆様、ご来場頂きました鑑賞の皆様がこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。

新型コロナウイルスの感染拡大はまだ止まりません。いくつかの地域で緊急事態宣言が発出され、美術関係者が心を砕いて施してきた感染症対策の努力と成果を無視するかのようになり、またしても美術館は突然根拠もなく休館となりました。宣言の延長に伴い、文化庁が国立の美術館・博物館の再開を表明しても東京都は休館継続を迫り、一夜にして再び休館の措置が継続され、他の宣言地域では開館するという奇妙な状況に陥りました。このように新型コロナウイルスは社会の歪みを炙り出します。我々が文化芸術をどれだけ大切に思っているかを問いかけ、弱いのを炙り出してやる。それもこの新型コロナウイルスの脅威なのでしょう。問われているのは私達作家の当事者意識なのかもしれません。

そんな中、今年も「県展」を開催する運びとなりました。ご出品の皆様には感染防止策のため、昨年同様、例年とは異なるお願いもありますが、熱い思いで開催を目指すに到ったことを意気に感じ、ぜひ多くの力作をご出品頂きますようお願い申し上げます。

また、長く休館していた滋賀県立近代美術館が名称も改め、リニューアルされて初めての「県展」開催となります。我々の発表や鑑賞の場が再開したことを喜び、広く県民の皆様が芸術は「生命維持に必要」なものであることを訴える気概を持って、今年の「県展」を去年にもまして素晴らしい展覧会にすべく皆様の力作をぜひお寄せ下さいようお願い申し上げます。(2021年6月記)

第75回滋賀県美術展覧会

会場 滋賀県立美術館 (旧・滋賀県立近代美術館)

会期 【前期】 工芸・書＝

令和3年12月9日(木)～14日(火)

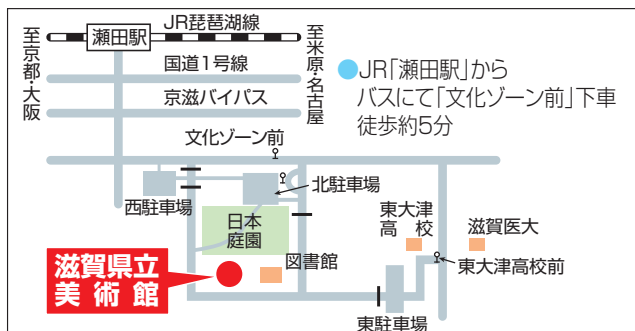
【後期】 平面・立体＝

令和3年12月17日(金)～22日(水)

*入賞作品は全部門とも前期・後期を通じて展示します。

◇入場無料 ◇月曜日休館

◇開館時間：9時30分～17時 (入館は16時30分まで)



新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、展覧会の中止等もごさいますので、作品の搬入・返却および鑑賞にあたっては、(公財)びわ湖芸術文化財団のホームページなどで事前の確認をお願いいたします。なお、ご来場の際には、マスク着用など咳エチケットにご配慮ください。体調がすぐれない場合は、ご来場をお控えください。

●作品の搬入●

【平面・立体・工芸・書】11月27日(土)10時30分～16時 於：県立文化産業交流会館

※組立てを要する、壊れやすい、重量物等、取扱いが難しい

立体・工芸作品は県立美術館へ搬入してください。

【平面・書】11月27日(土)、28日(日)10時30分～16時 於：草津クリアホール

【立体・工芸】11月27日(土)、28日(日)10時30分～16時 於：県立美術館

審査員による講評会

参加無料

※作品の画像で講評会を行います。

※入賞者以外の方は要予約

12月9日(木)9時より電話受付開始。
先着順。TEL 077-523-7146

◆12月12日(日)

〈工芸・書〉11時～ 於：県立美術館
木のホール(書)、ワークショップルーム(工芸)

〈平面・立体〉14時15分～ 於：県立美術館
木のホール(平面)、ワークショップルーム(立体)

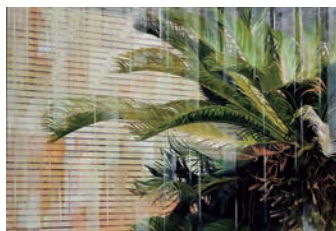
作品募集要項をご希望の方は、

(公財)びわ湖芸術文化財団 地域創造部

TEL 077-523-7146 までご連絡ください。

第74回滋賀県美術展覧会 受賞者のコメント

平面



「4月の雨」

知事賞受賞 植村博志

この度は身に余る賞をいただき有難うございました。描き続けてきてよかったと実感しております。ここ数年来「光」を意識して制作しています。この「4月の雨」も季節が冬から春に移り、同じ雨でも明るく暖かい光を感じる雨の日となり、その情景と人々の春にむけていただく希望とか期待を重ねて制作しました。制作の過程で苦労したのはテーマの雨の表現で、背景の蘇鉄とブラインドの邪魔にならない程度に描きたいといろいろ試してみましたが、思うように表現できませんでした。これからの課題にしたいと考えます。これからもこの受賞を励みに精進し制作していきたいと思っております、有難うございました。

立体



「夏の少女想」

知事賞受賞 岩崎高志

この度は、歴史ある滋賀県美術展覧会の立体の部で知事賞という最高賞を頂き、身に余る光栄です。この展覧会にはこれまで何度も頭像を出品しましたが、そのたびに成長させてもらって今日の私がいまいます。感謝でいっぱいです。この作品は、女子高校生をモデルに、夏の暑さの中にあっても常に爽やかさを感じさせる少女と、清々しい風を感じるような空間を表現したつもりです。その表現のために苦労したところは、ヘアバンド(ターバン)の位置と髪の毛の量感です。耳をしっかりと出し、その後ろの髪にボリュームを持たせることで緊張感を出したつもりです。また、ここ数年、臉を閉じた作品に取り組んでいるのですが、臉の奥に大人になりつつある少女の心象風景のようなものを感じて頂けると嬉しいです。今、改めて作品を見ると、まだまだ表現できていない部分も多いと感じます。今回の受賞を励みに今後も地道に努力を続けたいと思います。この度は、誠にありがとうございました。

工芸



「進化の刻」

知事賞受賞 牛原龍一

この度、第74回滋賀県美術展覧会において知事賞を頂き誠に有難うございます。「信楽の土と炎に出会い、伝統と今の調和を考えつつ自分の個性がしっかり出ているものを作りたい。」という思いから、自然の持つ優しさと荒々しさをテーマに『進化の刻』をシリーズ化しました。生きる為に進化し、圧倒的な自然に対峙し続けてきた生命と自然の共生を願い、白土、赤土、釉、面と線の構成を少しずつ変えて、抽象造形を製作し、10年が過ぎました。今回の作品の素材は、鉄分を含んだ土で、技法はロクロと紐積技法で形を作り上げ緑釉をかけて穴窯にて薪の炎で窯変の妙味を表現し焼成しました。今は技術も精神面も追い求め自分のイメージに近づけたい...土の素材から生まれる形、良いか悪いか分からないが、何かを作り焼きたい、一生現役で有り続けたい... 今回の受賞を励みにそして感謝の気持ちを忘れずに頑張っていきます。

書



「秋風」

知事賞・滋賀県芸術文化祭50回記念賞受賞 神戸雅子

第74回という歴史のある滋賀県美術展覧会において「知事賞」、そして「滋賀県芸術文化祭50回記念賞」を頂戴し大変光栄に存じます。有難うございました。今日までご指導いただいております先生、書の仲間の皆様にも心より御礼申し上げます。今回の受賞作品の「釣竿喜近秋風」は、篆書体で書いた漢字6文字です。篆書体は文字の意味を連想させる造形に面白さが有り表現の幅を広げられるところが魅力です。今回の6文字の中で「秋」の字形が大変面白く主役にと考え、「秋」を引き立たせる為に残り5文字の構成を考えました。また、より立体的な線が引けるよう、筆の弾力を生かした筆遣いを心掛け墨量にも気を付けました。後は体当り。勢いよく書き進めました。まだまだ道半ばです。今回の受賞を励みに日々研鑽を積んでまいります所存です。最後になりましたが、コロナ禍において多くの展覧会が中止となる中、開催に向けてご尽力くださいました関係者の皆様にも心より感謝申し上げます。

第74回 出品概要

① 出品点数

総数	421点 (73回 452点)
(内訳) 平面	230点 (// 241点)
立体	21点 (// 22点)
工芸	49点 (// 51点)
書	121点 (// 138点)

③ 最年少・最年長

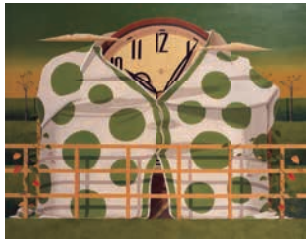
①出品者	最年少	15歳(2名)	最年長	90歳(1名)
②入賞者	//	17歳(3名)	//	80歳(1名)

② 入選作品数

総数	303点 (うち知事賞 4点、金賞 4点、特選 26点、佳作 18点)
(内訳) 平面	122点 (// // 1点 // 1点 // 13点 // 6点)
立体	19点 (// // 1点 // 1点 // 3点 // 3点)
工芸	41点 (// // 1点 // 1点 // 3点 // 2点)
書	121点 (// // 1点 // 1点 // 7点 // 7点)

第74回滋賀県美術展覧会 金賞・特選受賞作品(※紙面の都合により順不同でご紹介しています。)

平面



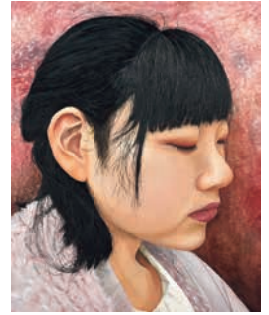
「遊びの時間」
木村 順 一
金賞



「未来への願い」
染道 三千代
特選
滋賀県美術協会理事長賞



「冬淡海」
大西 又 一
特選
滋賀県議会議長賞



「考え中…を乗り越えて眠い。」
高崎 美 萌
特選
びわ湖芸術文化財団理事長賞
滋賀県造形集団奨励賞



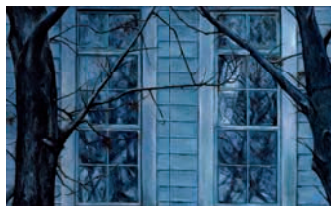
「ガラス工場」
肥後 訓 次
特選
朝日新聞社賞



「かや葺」
西井 貞 夫
特選
BBCびわ湖放送賞



「麦に夕陽」
川瀬 加代子
特選
中日新聞社賞



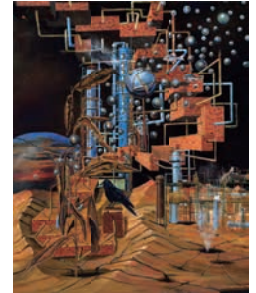
「休息」
仲西 裕 昭
特選
毎日新聞社賞



「思い出のメリーゴーランド」
川崎 和 子
特選
NHK大津放送局長賞



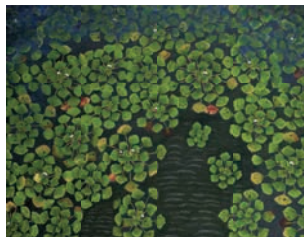
「スペース (空間)」
大西 隆 夫
特選
読売新聞社賞



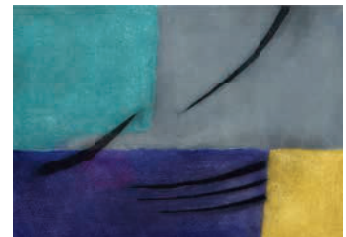
「沈黙の風景」
杉本 洋 二
特選
公益財団法人木下美術館賞



「里山」
外山 由紀子
特選



「溜池の秋」
平柳 美恵子
特選



「Four Regions 20B」
瀧 光太郎
特選

立体



「太古より」
川合 徹
金賞



「「JIZO」我懐」
三原 敏夫
特選
滋賀県美術協会理事長賞



「時の井戸皿」
川上 正昭
特選
エフエム滋賀賞



「語らう!! 偏見や差別なき
世界を願い!!」
廣岡 秀樹
特選

工芸



「卓上の静物」
中條 芳徳
金賞



「昭和・時」
浅井 スエ子
特選
滋賀県美術協会理事長賞

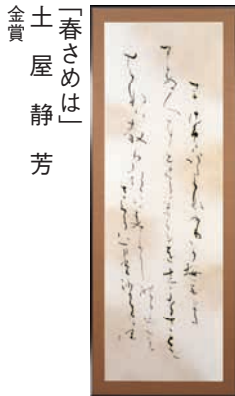


「環」
山下 鼓
特選
KBS京都賞
滋賀県造形集団奨励賞

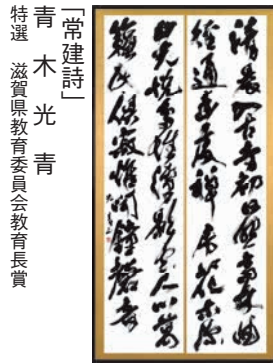


「秋」
藤井 誠治
特選
共同通信社賞

書



「春さめは」
土屋 静芳
金賞



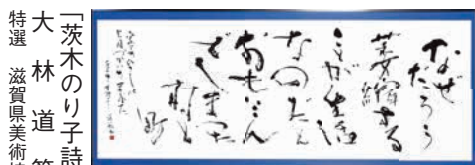
「常建詩」
青木 光青
特選
滋賀県教育委員会教育長賞



「有鄰」
藤居 孝弘
特選
産経新聞社賞



「回歸新生」
金澤 雅宴
特選
京都新聞賞



「茨木のり子詩より」
大林 道範
特選
滋賀県美術協会理事長賞



「花たちばな」
後藤 有啓
特選
時事通信社賞



「麒麟」
今居 青桃
特選



「与謝野晶子の詩」
猪飼 朱実
特選